

發句茶類集

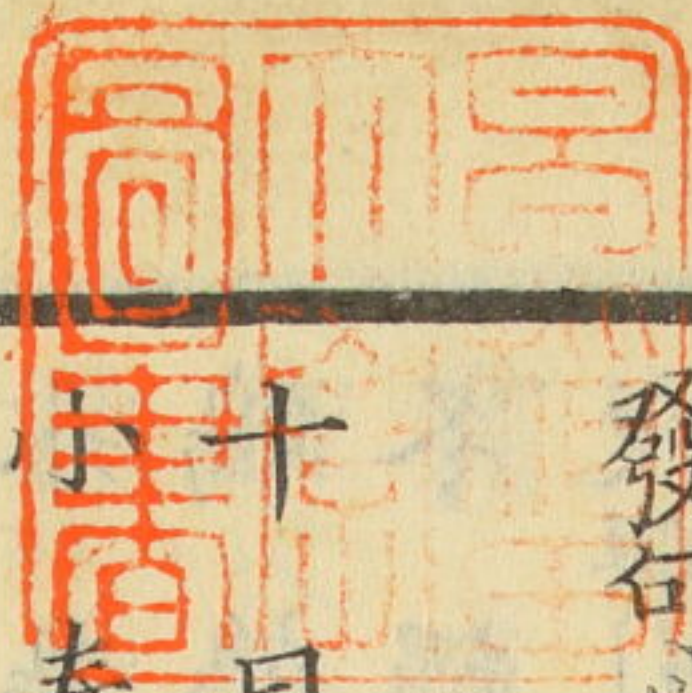
卷



5
1860
4



發句萬題集冬惣目錄



冬之上

散紅葉	冬木立	初雪	水涸	爐閑	十夜	達之忌	十月	春	神無月	神在月	神送	神留主	初冬
	廿二丁		十五丁				初丁	三丁	四丁	二丁	五丁	七丁	
銀香落葉	冬枯	落葉	志主乾	茶口切	玄猪	芭蕉忌	小六月	御命講	御取越	御影講	神迎	時雨	初冰
	廿二丁	廿七丁		九丁		六丁	四丁	六丁	八丁	七丁		十二丁	廿四丁
枯柳	露枯	木葉	初霜	初時雨	御取越	御命講	神送	御影講	神迎	御影講	神迎	時雨	初冰
	廿三丁	廿九丁			八丁		五丁	七丁		七丁		十二丁	廿四丁
枯芒	霜枯	風	初冰	時雨	神迎	御影講	神留主	御影講	神迎	御影講	神迎	時雨	初冰
	廿四丁		廿四丁										



夜興引	冬蠅	鷓鴣	水鳥	鴨	麥蒔	茶花	枯野	枯茨	枯蓮	枯尾花
甲子			世子			三子				
	冰魚	冬鴈	浮寢鳥	小鴨	蕎麥	山茶花	汚野	枯葛	枯菊	枯菽
		世九子	世六子	世六子	世三子		世八子			世五子
	柴積	鶯子鳴	水兔	鈴鴨	千鳥	八手花	歸花	枯葱	枯蔦	枯菽
		甲子				世丁				世六子
	網代守	冬蝶	梟	鴛鴦	鳴	冬牡丹	枇杷花	枯草	枯萍	枯芦
					世五子		世九子			

冬之中

雞卵酒	冬雨	鐘水	雪竿	雪轉	霜柱	大師講	神樂	御火燒	霜月
					甲子	甲子	甲子		甲子
生薑酒	寒雨	凍	雪車	雪佛	雪	芝居願世	里神樂	子祭	冬至
蕎麥湯	煮水	霰	冰	雪吹	雪見	霜	空也忌	子燈心	髮置
	世九子	世五子			世五子				甲子
脰	藥喰	霰	冰柱	雪杏	雪礫	霜夜	鉢敲	吹革祭	袴着
			世五子	世五子					



燕	淺	鵲	追	鈔	鰕	柎	寒	石	聯
曳	漬	巢	鳥			花	梅	路	花
<small>李</small>							<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>
	風	干	暖	杜	乾	顛	冬	早	水
	呂	菜	鳥	夫	鮭		至	梅	滌
	吹			魚			梅		
					<small>李</small>				
	納	葱	鳥	鷹	牡	生	冬	室	寒
	豆		叫		蠣	海	椿	咲	菊
		<small>李</small>				鼠	<small>李</small>	梅	
	大	生	寒	鷹	鮫	鯨	寒	冬	水
	根	姜	苦	狩	鱈		椿	梅	仙
	曳	堀	鳥						<small>六</small>
				<small>李</small>					<small>十</small>

冬之下

綿	蒲	埋	炉	炭	北	冬	寒	寒	師
帽子	團	火		竈	窓	日	念	佛	走
<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>						<small>李</small>
足	布	懷	火	炭	冬	冬	寒	寒	事
袋	子	炉	桶		籠	夜	声	入	始
				<small>李</small>			<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>
冬	紙	湯	火	炭	冬	冬	寒	寒	臘
空	子	婆	鉢	賣	月	几	晒	内	八
			<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>	<small>李</small>			
冬	頭	衾	巨	楮	寒	冬	寒	寒	佛
雲	巾		燧		月	構	水	垢	名
	<small>李</small>				<small>李</small>			離	會



除夜	年瀨	春近	鯛味噌	年市	厄拂	掛乞	餅搗	冬川	冬山
	<small>冬</small>						<small>冬</small>		
年内立春	流る年	年籠	年忘	門松賣	終る	節分	餅花	岡見	冬野
<small>冬</small>				<small>冬</small>	<small>冬</small>		<small>冬</small>	<small>冬</small>	
	行年	年雪	年用意	古曆	鯛る	年越	年水樵	衣配	冬海
			<small>冬</small>						
	大三十日	年暮	春待	曆賣	節季候	年夜	書出	煤掃	冬田
							<small>冬</small>		

發句萬題集冬上

冬至庵庚年 輯
八雲 東溟 荅

十月 十月やいつくは雪はあみり
 十月 十月や梅の雪をこの那
 十月 十月や柳の雪は日知らる
 十月 十月や雪はあみり山
 十月 十月や梅の雪はあみり
 十月 十月や梅の雪はあみり
 十月 十月や梅の雪はあみり

幽也
 完来
 外六
 卓池
 荅
 抱像
 鼎古

十月や多々能くけり家の内
 十月や縄のうらまを能く
 十月や無表のうらまを能く
 十月や物うらまを能く
 十月や安ひきうらまを能く
 十月や少々の在のま月を能く
 十月は月屋の堂を能く
 十月は仙んせよ神を能く
 十月はの大松を能く
 十月は松の落葉を能く

嵐
 麻
 茶
 旦
 南
 榮
 其
 松
 甚
 治
 石

十月は月屋の堂を能く
 十月は仙んせよ神を能く
 十月はの大松を能く
 十月は松の落葉を能く
 十月は月屋の堂を能く
 十月は仙んせよ神を能く
 十月はの大松を能く
 十月は松の落葉を能く
 十月は月屋の堂を能く
 十月は仙んせよ神を能く
 十月はの大松を能く
 十月は松の落葉を能く

松
 泉
 白
 慈
 八

初冬

初冬や白湯の湯あふ流氷の鐘
 初冬は機子入るやまきりく
 初冬や起れと見ゆる時鼻の町
 初冬や小商ひまゝもる居る也
 初冬や菊田のあはれまけあり
 初冬やうぐく町のをまきり
 初冬や苦よりたゞは本はたけ
 初冬やうぐく舟は舟種田川
 初冬や思案まきり粘細工
 初冬はたをまきりけり二月月
 初冬やあゝまきり檜桐第

千梅 荻右 茶新 滑基 抱儀 南枝 李秋 子格 荻了 松竹 素行

小春

風まきり息く小春う那
 小春風共帳ま七合五夕の
 海は青一日遠た小春う那
 志んれなまはたりく一日小春う那
 屋中た一時まきり小春う那
 初梅一介あはれ小春の玉露が
 小春う那や玉い羽織の前下り
 今春の遠のうへ小春う那
 菊をつくまきり小春の湯池
 小春う那やまきりやま刀
 可憐のあはれやまきり小春う那

聖水 荻村 晚香 路通 理然 李内 玉圃 梅二 左木 南枝 寒松

よび人の家へ行くも山を
舟引のつばき先との山を
漕舟の舟は堀くむ山を
舟家のつばき山を
つちられぬ堀くむ山を
那ま人のつばき山を
持せぬ堀くむ山を
うらひまのあぬを
宿人のあぬを
飯初を
高き家

舟六
貞祇
寸長
禾月
三荻
内誓
河堂
林曹
一彦
酒入
水狐

義重一人のつばき山を
翌日とつばき山を
小まき山を
尾やけ山を
庭下山を
持せぬ山を
つちられぬ山を
枯き山を
薪部山を
新部山を
つちられぬ山を

栴室
夷則
碓瓦
船村
珠山
二丘
丁局
右通
草也
小栢
籠唐

高原五日ありてふれはくは
 小まきりや中村まきり者りり
 寺新くくまきり皆居て小まきり
 江先子小まきのんゆまきり
 屋折おまきり信り門くく小まきり
 麻まきり掃除のくく小まきり
 小六月 城山子雑子出けり小六月
 夕陽おまきりまきり小六月
 志く流や中村おまきり小六月
 山下畑まきりあきり日おまきり小六月
 朝夕おまきりまきり小六月

慎我 涼庫 素樸 子格 二 山店 鬼貫 子格 荻帆 東溟

神送 萬まきりまきり神送り
 布子まきり神まきり神送り
 あまきりまきりあけまきり神送り
 まきりまきりまきり神まきり
 野新家へ酒おまきり神送り
 家新おまきり神まきり神送り
 神のまきりまきり神のまきり
 神のまきりまきり神のまきり
 神のまきりまきり神のまきり
 神のまきりまきり神のまきり

鬼貫 玄素 降五 露川 麓座 一茶 其角 鬼貫 東吾 掃月

卷三十一 五

との麻糸を糸針にけり神の留を
影の餅をすねり也神の留を
氏神の留をすねり也神の留を
神を留をすねり也神の留を
松松と山のありし神の留を

連下忌

連下忌や醒しむるとも
連下忌や葉が舞ふ影を
連下忌やたるまゝ二十八代目
連下忌やたるまゝぬ能く
連下忌やたるまゝ持がら
連下忌とけりきりけり葉が物

夷剛
多よ
松海
糸山
一箱
糸山
希因
百明
完糸
白雄
素折

芭蕉忌

連下忌やそのまゝとあるあのみ
連下忌や苔むすの松より
連下忌や慌忙の灯をせり
連下忌や酒先よきいもの
連下忌や十ヶ所けり像の
連下忌や日本一の國の
連下忌や尾をぬれ月夜
連下忌やけりもを茶室
打毛連下忌佛と唱へる
連下忌や其角の餅の冬牡丹
舞草とけりけり十二日

由誓
芭蕉
松心
了知
史邦
存跡
仙空
標良
二折
大江丸
南枝

六

時田舎やがとまりたる桂枝流
 公卿もや落葉の音も秋の便し
 時自今やあけくささきか
 雪もゆく月秋の影ぬかぬ日
 ち世然もや初め紅雲も月照り
 ち世然もやあそびの初十日程
 西命講酒乃やうれ海五升
 出んややくさ留の片さう西命講
 西命講やや隣の紙も揺るく川
 西命講上戸も餅の一夜うれ
 移らばやあそびと六七日日蓮忌

英 泉
 あ 雅
 子 格
 亦 年
 一 具
 通 南
 在 氏
 併 六
 出 白
 改 江
 何 之

西命講や日和のよき人のあそび
 常よりあそび特喧嘩あそび西命講
 西命講や馬よりけりて貸あそび
 新布撫より料理さうり西命講
 十月のちもくた日本の涅槃の那
 撫葉とあそび月秋も十秋うれ
 翁も隣りて京も多き十秋うれ
 居風もを振舞きさうり十秋うれ
 十秋証のまじり納豆と叩き付けり
 せあそび十秋何少習と九十九秋
 蠟燭の灯と煙草のむ十秋うれ

一 具
 南 枝
 素 行
 素 撲
 百 明
 浪 化
 乙 内
 史 邦
 言 有
 燦 羽
 二 丘

人のぬらひ中の十秋のれ
片つるやあや十秋の初挿除
あつれてまねりて十秋が
捨つて了録をほま十秋のれ
筆のつる仕書し十秋のれ
時鐘のなる松山の十秋のれ
鼻紙の吸う消え十秋のれ
何ぞて腕を手にし十秋のれ
地の人たまはれ十秋のれ
居るや上綱をよす十秋のれ
居るや十秋のれぬ十秋のれ

淡高
卷高
一南
是非
一具
南枝
英泉
榮教
梅令
日人
羽人

玄楮

後子子能おや十秋の人能才
葉をよむまよす十秋のれ
玄楮のう家出る藪能氣のれ
物管まのやうのう玄楮能
米二升小藪う家能言子の那
お鼻まよまよえきり十秋のれ
志くれまよまよ八百屋の玄楮
玄楮能肉像のまよ一庭のれ
灯の足まよ家教けり十秋のれ
まよ不る能能のまよまよ十秋
自まよまよまよまよ十秋

陸奥

近山
松照
万和
由誓
葵古
子那
波村
嵐富
相巻
相巻
壮實

向石越

向石越

新編 日本書紀

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

波同

島新

由誓

燦夢

巴菴

其角

其角

其角

其角

其角

二丘

葦村

葦村

葦村

葦村

葦村

葦村

葦村

葦村

葦村

景口切

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

神迎 神迎山 神迎山 神迎山

新編

日本書紀

初時雨

初時雨 けりきりくさ年とれ初時雨
海原を能島帽子に上り初時雨
新やう能屋根の書やとる時雨
高岸一 初は能屋根初志とれ
初一とれ眉に島帽子乃書とれ
ひきやうの能屋根書とれ初時雨
其屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ

去来 許六 文學 葦村 交考 乙由 汎井 後了 手代 園更

初時雨 けりきりくさ年とれ初時雨
海原を能島帽子に上り初時雨
新やう能屋根の書やとる時雨
高岸一 初は能屋根初志とれ
初一とれ眉に島帽子乃書とれ
ひきやうの能屋根書とれ初時雨
其屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ
能屋根の能屋根初一とれ

芳英 手格 風朗 素樸 杜有 宇忠 州人 手香 梅堂 有墨 由誓

茶の壺のきろぬ能りり初志くれ
きりりくは夢に入来や初時雨
菴をむちとら菴をあり初時雨
初志くれ菴をうり能き逢くれ
初しくれ川砂たれ止まけり
菴を能りけりかあし初時雨
川の字に流屋はあきまら初時雨
初志くれいそくをきりけり
水はくさ甚のあきやとくれ
芳しれちり院ま初しくれ
我先と入ぬ非能まくれ

茶 壺
寄 詞
一 茶
三 詩 人
菴 松
菴 村
杜 鰲
乙 居
松 軒
卓 池
手 崖

晴 雨

起る宮へ降歌きや初時雨
志ろくや田能菴楳の思むか
つくりくれ年をきりけり
松原能遠るを思ふ初時雨
松風能里に初れくれ
飯能まき合村のくれ
幾人くれくれけり初時雨
志ろれ能き松風の思むか
馬ろくや田能里にくれ
初れくれ初れくれ初れくれ
初れくれ初れくれ初れくれ
初れくれ初れくれ初れくれ

一 茶
左
其 角
卷 宣
去 来
文 学
北 枝
乙 物
沈 是
吞 水

杉山やーこれの足のもまひやう
志々々や田能落合能杜能
出さささたあひるもれく時をいれ
其ささうたあ来はより多々一時雨
一吹の本義あまつくーこれうれ
垢城くそ福の田まわす時をいれ
老々々へけあハあさけり志これの極
根まけくそ時をいれーこれうれ
雲まこれや山を折まそくあさ時を
常にまこくそ時をいれーこれうれ
浪際の時をいれ折のーこれうれ

利合 清葦 三葛 朝陽 自來 而石 蒼帆 照榮 幻芝 長峰 長望

志これあさくあさくあさく入まけり
わーし約蕙ハ西日能ーこれうれ
志これあさくあさくあさく時をいれ
志これあさくあさくあさく油血
あさ出さくあさくあさく時をいれ
片里まーこれぬ山折の時をいれ
わーし文ヶ合能折まーこれうれ
川舟能けし時をいれーこれうれ
志これあさくあさくあさく素相
志これあさくあさくあさく時をいれ
志これあさくあさくあさく時をいれ

梅室 庚年 双鳥 一具 石阿 右通 其山 一窓 夷剛 杜蔭 一映

終 十二

一編入せむやうのあり舟
 活きのあけの船や一時白
 陰雲のさるるやあつ白か
 志すや麻衣を挿は鐘鳴
 いまやうと物たり今時白
 市人の朝山越る一これの那
 木つくと志すれやぬ他の才
 志すれま由一暖那の二申ふ
 黄多結舟と身そめく志すれ能
 風吹ハ本まささく志すれ能
 毎舟とさやうと海志すれ能

柳岡
 南枝
 蒼蒼
 龍丸
 清良
 弓阿
 素樸
 梅令
 荳村
 大江丸
 士朗

いそりう世のあつと志すれ能
 志すれ能やうとあれハ時白けり
 わけ合とやうれ志すれやうと
 一うとや歸つと戸の遠一間
 日新あしをねとやをえく時白けり
 片町のうれとうと志すれや飛
 志すく志すく柳の思葉か
 志すや小松と藤と一これ
 志すくや海へ志すやまは鐘
 三日月に一思ふと志すれ能
 志すくを沖とえけや舟舟

標堂
 朱原
 鳳朗
 西月
 曲阜
 古基
 芦蕙
 子格
 一誠
 小栢
 阜丈

土橋を馬にやめてゆく志られぬ
人喊く燈心建てる志られぬ
積り雪の積りゆく志られぬ
今晴く志られぬ泡や池のまみ
志れくや谷へ流せ玉より川
志れくや坂のつたを杖を
独り籠りけり枝を志られぬ
わたり場を人のまじりし時目か
暮れゆく庭まじり程の時目か
とく都りりまきりこの時雨
あつ子山と雨の志られぬ

高暖
法芝
獨醒
抱像
逐流
助宣
難産
貞祇
多よめ
小圃
蝶采

一手桶汲うをぬき志られぬ
明く夜ゆくれ枝を山に
照りゆく志られぬ月夜
志れくや山に籠りて
志れくや澄切岩のたまり
山崎の枝を志れぬ
晴るの管を志れぬ
志れくや晴る他を志れぬ
志れくや志れぬ
吹ゆれる木に志れぬ
移る母を志れぬ

采甫
有人
仁里
古綱
廣吉
山分
梅裡
若白
水狐
多よめ
月化

續後三三三
十一

井柱細きあかりよ小松志んれ
山里や霧の中かき一志んれ
志んれねんをんまき草登
梅枝中かきんれきりや茶の煙り
三井志んれ種まきり月初れ
志んれよ今ま茶のんゆる草
一志んれやまねんかぬる流の海老
神木志んれ指ぬるき一志んれ
志んれよや茶枝梅魚一志んれ
井志んれ松木島一志んれけり
志んれよや茶一志んれ柚子二つ

可都里
寒松
万和
蕉雨
遠路
東海
羽人
佳年
水菴
水谷
有墨

水 涸

初霜のそよよも待ぬ一志んれ
松志んれや杖下れまきり
もろもろやま心り先れ一志んれ
各涸て三日月言た河原の舟
二三日隙をよ涸る流まきり
あまのひも霜をまたのよま
初霜やまきまき一志んれ
初霜の流まきり一志んれ
初霜をん出まきり一志んれ
初霜や草のまきり一志んれ
初霜や日誌出前の一志んれ

松崎雄
恒丸
岳松
樞年
祖口
白雄
北枝
大草
麓産
山脊
赤高

水
水
水

初氷

初霜よ日和のつく山家の那

芹焼や振舞の田井のうら氷

まの氷けさる鶴たぐりたり

内より居て昼あきしそら氷

家内中尺せそ持ちや初氷

初雪

初雪や掛かりたる橋乃上

初雪を盆に懸て詠ふ那

初雪や裾へともかぬ白下也

初雪の帯引く出る船戸の氷

初雪や松よるたぐりて茶の葉子

初雪や掃き雪をよひて夢合

喜波

ませ派

岳輪

呂川

湖山

ませ派

其角

嵐雪

聖名

北枝

知豆

初雪やま川雪履をみ降ま

初雪や四五里隔て比良の嶽

初雪やみそねに任舞笹能喜

初雪能栗けりや大板

初雪を流し掛けり名菜畑

初雪能萩降るそよなうりけり

あけくまの初雪や雨能中

初雪やまに能動ぬ波能先

吹止くまの初雪を来りけり

初雪能ありく見ゆ峠の氷

初雪や此以花と草能つや

跡通

去来

木因

雪山

四風

呂川

吟露

玉圃

祖文

松軒

抱像

初雪能昼降るけり積る程
 初雪能葉山子つるて張りけり
 初雪や今波入し一花
 わきよし雪能初も来より危
 初雪や波乃ともかぬ岩乃人
 初雪や人の共しつれ梅笠
 初雪や古口見ゆる壁乃穴
 初雪や石屋乃雪能啼き
 百年能けしきを庭の落葉のれ
 ちうの地能城の雪乃る落葉のれ
 月能出る雪能空能落葉のれ
 舟能の雪よあつる落葉のれ
 白能の流雪よ雪能落葉のれ
 雪よ指得とよ能落葉のれ
 流雪のりともかく朽る落葉のれ
 魚能うく梅子沈む落葉のれ
 雪よけく釣瓶投也落葉のれ
 能雪よ落葉のれや度り馬
 加さくとも湯殿の能落葉のれ
 着能子のかあり梅の落葉のれ
 能能魚能落葉のれかられけり
 因能あよわきと加し能落葉のれ

庚年
 赤糸
 波洞
 海墓
 淡
 士朗
 一茶
 梅雪
 古風
 百原
 本草
 本草
 許六
 内誓
 逸園
 梅價
 外外
 文翠
 杜鷲
 右通
 梅雪

舟能の雪よあつる落葉のれ
 白能の流雪よ雪能落葉のれ
 雪よ指得とよ能落葉のれ
 流雪のりともかく朽る落葉のれ
 魚能うく梅子沈む落葉のれ
 雪よけく釣瓶投也落葉のれ
 能雪よ落葉のれや度り馬
 加さくとも湯殿の能落葉のれ
 着能子のかあり梅の落葉のれ
 能能魚能落葉のれかられけり
 因能あよわきと加し能落葉のれ

終
 十一
 六

巻之三

十一

一吹能あはれとてはあはれ落葉の那
 反古布とわたきぬ屋の落葉の那
 戸のあはれ落葉の那や荒啼
 村人の足音を遠く落葉の那
 あはれ以のあはれとてはあはれ落葉の那
 加えりや強松とてはあはれ落葉
 朝夕にあはれとてはあはれ落葉の那
 軒柱の落葉とてはあはれ落葉の那
 素い木に落葉とてはあはれ落葉の那
 落葉の那とてはあはれ落葉の那
 情けあはれとてはあはれ落葉の那
 照る木に落葉とてはあはれ落葉の那
 吉村のあはれとてはあはれ落葉の那
 落葉の那とてはあはれ落葉の那
 石切に何やらとてはあはれ落葉の那
 降中雨や落葉とてはあはれ落葉の那
 寝る機とてはあはれとてはあはれ落葉の那
 わきとてはあはれとてはあはれ落葉の那
 禁つとてはあはれとてはあはれ落葉の那
 あはれとてはあはれとてはあはれ落葉の那
 風光や初子とてはあはれ落葉の那
 表とてはあはれとてはあはれ落葉の那

右 老
 謝 本
 女 柳
 甚 村
 茶 炎
 道 夫
 万 和
 葉 村
 秋 夫
 心 阿
 情 家
 素 行
 千 年
 詠 為
 醒 葉
 子 格
 途 派
 甚 山
 丈 塚
 貞 根
 多 島
 吉 鶴

終

十八

ねまのしほきとけりてるるるるるる
引もをぬけしるるるるるる
其そよや一村の皆るるるる
床にちよつらんけしるるるる
赤いのちたあしく交るるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
新れあつた門に切て掃るるる
吹まよふるるるるるるるる
秋の白るるるるるるるる

赤月
蝶菜
扇和
通南
演古
一南
羽人
佳年
万像
小松
有隣

本草

三尺の山もあはしの本草の形
あつるるるるるるるるるる
あつるるるるるるるるるる
世に新れつれくあつるるる
あつるるるるるるるるるる
是えし秋風の起るるるるる
一山乃本草の形あつるるる
新れえあつるるるるるるる
あつるるるるるるるるるる
あつるるるるるるるるるる

迎山
守武
文学
為有
流芝
白起
函流
朝陽
業
首見

葉大根のうへをふりし本葉の
本葉葉あふ葉ふひをそむ月
月の生くふきハ散やむ本葉の
うろくくき日ありの交る本葉の
中へ舞ひ散る本葉の那
盡浪能志くく足えそち本葉
掃多もぬけし程あふ本葉の
落きぬたうく静本葉の
事くくくつり本葉の
ちり散る本葉の
結くくの散る本葉の

南 漢
梅 室
弄 化
蘊 山
世 岐
子 轍
素 柳
蒼 帆
石 后
史 子
江 三

風

二階まで吹風能本葉の
空やけり葉あふりや散本葉
一吹く本葉の
風子岩あふりそ岩の那
風や雨の散る本葉の
風や鳥のそよよふりそ
本葉の
風や岩のそよよふりそ
本葉の
風や岩のそよよふりそ
本葉の
風や岩のそよよふりそ
本葉の

陸奥

一 成
唐 年
惟 然
智 月
草 土
風 井
其 角
業 言
交 考

終

十

風や郡下新志すのむら蒨
本よりしや兼て常以馬の綱
本かすし結果たありけし海は青
風や村へ這入らおとせ
風よ夢をかきまら妻本との
風やつことまり新築車
風や何よ世をくま家五軒
風や海つをいよ出た月
本かすしや絶るも身はさへり地
風は風をく海は海をくり
本よりしや孫たけむる大井川

凡兆
百明
言水
子冊
曉臺
白雉
蕨村
士朗
月居
健翁
山馬

本よりしや月八元より九裸
風よ新築家や馬乃苗書
風や梅はかきまら蒨は
風は海にさ浪たけたつた
日よくしは風吹く一破る鶴
風や葉かきし一葉よまらひ入
風より言明や新馬
風や相織あつた曲り角
風はやびや西日新築む志
本よりしは先つたりや明鶴
風や春をかきまら小田の鶴

六費
芥舎
風也
蒼乳
梅室
一具
卓池
岱年
抱儀
朝陽
待莖

春のししや汐子蝶々松花餅
春のししや肉店多た京乃町
春のししや犬先くそりし人
春のししや夕暮子打る立場丸
本枯の吹やむあ能光るの飛
風花志ころり夕暮や酒をわし
海より風あつや磯乃まのり
風やち能男と秋を平ま
春のししや春まつうふふ二能山
貝かりを風花少くらん春本立
春のししや花やまろろ春本立

冬本立

春入てききあつや冬本立
春花羽のひくや中を冬本立
朝夕子あまふあり冬本立
磯の服てんきか音鳴り冬本立
家々塔うーし泣むまけり冬本立
井戸もろろと贈の春あつや冬本立
あり炬子山をう川や冬本立
春花葉能あつや春の能冬本立
一林抜あつや春の能冬本立
捨られしものそ花外冬本立
小体もろ標を能あつや冬本立

山分
丁為
徳々
里妻
稲洲
夷剛
角丸
東之
角丸
魚口

茅村
肥刀
碓嶺
急淵
波田
左尔
手輪
弟之
蒼丸
三博人
得是

家ちりつ表をとりはねる
 岩に根を流すもぬやぬや葉
 谷石を流ぬ葉ありぬや葉
 ちりもの中よ葉をみちり
 豆袋脱て豆粒ありぬや葉
 けきうて仕舞葉ありぬや葉
 丹中よ風のまきぬや葉
 菅いすよぬや葉ありぬや葉
 今よかよ流すぬや葉ありぬや葉
 喜うりもあつたかき日をぬや葉
 銀唐茶葉 階下木をたぐりぬや葉

本園 南枝 枝尾 小栞 其山 山外 安雅 風朗 名非 香義 道表

枯柳 川越る葉は是り枯柳
 枯果く月もやぬ柳の那
 芽を少くらぬや葉あり枯柳
 一面よ河原をぬりぬ枯柳
 枯くく伸くくやぬ柳の那
 うれくぬえ二木よんぬ柳の那
 色もくくまうぬ枯柳の那
 枯柳ありぬ柳の那
 枯人ぬぬい苦がりぬ柳の那
 人ひりけくぬ柳の那
 枯くくく風の風きぬ枯の那

鬼皮 片て 二丘 手糖 榎女 素行 徳了 月居 榎堂 一寺 原池

十
 十四

風香とて冬八喜らぬ枯きく起
 眼よりけりて照るればけりては世
 以てこれの廣く枯きく世のれ
 枯きくつとみちあつて枯きく世のれ
 枯きくつとみちあつて枯きく世のれ
 冬子角と形をばあきの枯尾花
 手葉殿に似てけりて枯尾花
 中へは枯つてくぢりぬ枯尾花
 枯尾花とそれとつとつと月日うれ
 河原もも新緑あり枯尾花
 夕暮る日よ刀打りて枯尾花

柳多
 多と女
 梅室
 桐堂
 丘阿
 古也茂
 暮村
 晚臺
 山分
 海菫
 雪標

枯きくつとみちあつて枯尾花
 一風と大槩けりて枯尾花
 枯きくつとみちあつて枯尾花
 小口へは枯きく尾花の山
 之也とや町うて大の枯尾花
 輪とてつとみちあつて枯尾花
 去りたりと耳とありて枯尾花
 星とけりて照るれば枯尾花
 片もや新緑ありて枯尾花
 枯の多とみちあつて枯尾花
 下りくつとみちあつて枯尾花

悠々
 枝玉
 大梅
 朝陽
 梅室
 小梅
 船村
 子梅
 麓屋
 其山
 素柳

枯	蓬	くさくさ草のあまうしとくしと枯くけり	そと
枯	葉	ゆるり草かき先へ枯くけり	一原
		草枯くけり	石佛
		あけや枯くけり	倉用
枯	葛	草枯くけり	碧風
		枯くけり	南枝
枯	岸	海風よ来りて枯くけり	午号
枯	藤	藤よ来りて枯くけり	雪海
枯	葛	竹垣よ来りて枯くけり	葛父丸
枯	葛	志すよ来りて枯くけり	大瓜
枯	草	草枯くけり	長
			燈

枯	萩	萩枯くけり	埋き舟戸
枯	萩	萩の穂形袖つる萩くけり	卓池
枯	芦	枯芦や雄波入江に枯くけり	鬼頭
		あまうしに川原の芦の枯くけり	暁臺
		芦枯くけり	楓枝
		江に枯くけり	途流
		枯芦の百よりえゆるおゆり舟	柳雅

十六

枯聖

草枯や鶴の行りうらむ遠慮
 鹿の草むしりて枯るけり
 枯草や鳥の巣のけりて居る舟
 手も草もくも枯るけり枯聖の如
 子日けり鳥見れぬ枯聖の如
 象形も鳥のけり枯聖の如
 聖の枯る伸も枯るけり枯聖の如
 けりてぬ鳥の巣のけり枯聖の如
 聖の枯るけり枯聖の如
 生も草もくも枯るけり枯聖の如
 うらむ日枯るけり枯聖の如

白雄
 松海
 由誓
 来山
 瓢船
 初月
 支考
 百明
 玉芳
 甚村
 五難

一丁日あるてある枯聖の如
 二丁日あるてある枯聖の如
 三丁日あるてある枯聖の如
 四丁日あるてある枯聖の如
 五丁日あるてある枯聖の如
 六丁日あるてある枯聖の如
 七丁日あるてある枯聖の如
 八丁日あるてある枯聖の如
 九丁日あるてある枯聖の如
 十丁日あるてある枯聖の如

柳承
 梅僕
 耕堂
 梅室
 悠々
 弥海
 二丘
 陽々
 子輪
 其山
 水谷

冬
 十七

石あれは名は枯葉ある枯野春
春の初まきや枯野花の影
川裁の人引よ出さ枯野の影
深き一人通し一葉屋長は枯野が
枯や野花をよ出むる唐の女
野を枯く家鴨の足のとゆるけり
枯野道も一節出まは枯野の影
杖先く流る心まむ枯野の影
人呼ぶまきや枯野のいつ家
名も志しぬ小まを咲枯野の影
四方より日影くれり枯野の影

寸長
文昇
阜池
山外
士朗
来良
蒼帆
鳳朗
赤木
道彦
寒松

任那

阿比志

又元遠くくち通つる枯野の影
日影くれり嫁入通つ枯野の影
くちり那野花影まきや二軒
風まきひやつけり帰るまき
そのまきやまき西日や帰るまき
何れまきくちまきまき一帰るまき
一帰るまきまきけり帰るまき
帰るまき日影短くまきまき
まきまきのまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまき

赤良
三浦人
一青
乙二
まきま
鬼彦
来山
言六
乙由
赤代
累更

大
大

之りむあつて梅よきなりけり
梅は木も静りさうけり梅り也
山人の年安多し一降里也
さうさ川あふれけり梅り也
梅一重外を通り上梅り也
あつても梅つるをあり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也

奇剛 素潔 岱雲 大魯 刺葱丸 雲濤 大管 梅室 夷剛 糸月 真山

聖日まゝ梅けり人けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也
梅り也あつて心地けり梅り也

甲人 笑壺 蝶二 芥之 山外 一指 一肖 雲香 蒼乳 完穂 丁成

十九

跡を茶をとりてのうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて
跡をうまやゆりて

井梧
系教
氷谷
子権
野坡
舎羅
寸長
佳年
梅室
深
二五

枇杷花

枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花
枇杷の花

東剛
米年
多よあ
一具
万和
素柳
赤木
正秀
浪化
一具
真山

茶

茶
茶
茶
茶
茶
茶
茶
茶
茶
茶

真山

茶花をやはらぐハ指入布の次
茶のおやまをうす先ハ寺花畑
耳ノ珠鼓をけり茶の花わしけり
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り

深 3
東 溟
燦 二
子 松
尾 橋
吳 聖
茶 以
士 朗
道 彦
其 角
健 高

山茶花

山茶花をやはらぐハ指入布の次
茶のおやまをうす先ハ寺花畑
耳ノ珠鼓をけり茶の花わしけり
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り
茶花をやはらぐを病上り

不 克
一 具
旭 海
梅 二
卓 丈
雀 安
子 松
燦 二
東 溟
林 彦
尚 白

山茶花



打噴く少綱法は其心子一礼
 本多渡り其まのくや八つ子噴
 冬牡丹 冬牡丹 定めかたき甚き其れ
 大舟子粘ある家や冬牡丹
 ひろくくく空の冬牡丹
 うねきよおれ甚きよ冬牡丹
 冬牡丹 さうせし噴き手揃うれ
 噴きて居るものや冬牡丹
 其甚より其の礼や冬牡丹
 冬牡丹 切敷れ其くもり果ぬ
 舞臺の吹くは乃よ冬牡丹

三浦人
 多よあ
 尺草
 西武
 鬼骨
 杜旭
 風石
 志保
 月庭
 標堂
 月化

春前

春前や妹の湯を待顔のあり
 能く付くや春前其より更衣衣
 春前や一睡のさくもくも冷
 春前や花ぬつより能親父さあ
 田の春を前園へけけかく島
 門へさく春もも子藤を能けけり
 春前や西日をよけり能くあり
 春前やききれ能るももり
 春前やんゆや山能綱ゆき
 春前やゆりのまは能き其甚き其の蓋
 そのまのうに能のまはむ甚き其

鬼骨
 一井
 乙由
 百明
 乙二
 内誓
 沙鷗
 南枝
 子緒
 志保
 桐実

子鳥

星崎能雲をくまなくや鳴子鳥
よ朝白和月はけしきや村手鳥
浦風やおのれを扇をむく子鳥
山まきくやまきくや鳴子鳥
あけ男袋はあつらふ子鳥
家持のけしき入るや鳴子鳥
うら尾のまきくや鳴子鳥
煙能炭を鳴子あつらふ子鳥
小敷子鳥原申付舟屋形
藁能大をたよりまきくや鳴子鳥
輪のけしき元の淵つく子鳥

其角
子那
山夕
燈籠
傘下
桃矢
文草
李由
眉山

日能くちを一つく二つ川ちとらり
湯舟くちを揺る子鳥
里まきく桐の葉はくちを鳴子鳥
鳴る能能葉はくちを鳴子鳥
子鳥を所能く原を地う那
一帯をまきくやあつらふ子鳥
明能る月や子鳥能能子鳥
我志をちのけしきく子鳥
暁やあつらふかきく子鳥
うらまかきく子鳥
里能くちを鳴子鳥

士鳥
藁
梅室
白起
林曹
山谷
梅鳩
祇白
素柳
波同
いそ

秋通一上湯屋の灯をくもる
 川を舟枕かきくく揃つれは
 杖下手をこぼるや女を子舟
 子舟守るまの明けり古松門
 名陸へむけのふらふら子舟の乳
 照るくく平湯や月を啼子舟
 戸を明てる人ききき寝たり啼子舟
 昔うたかた子舟や時斗時を河
 月さゆは川下ややうく子舟
 古松守り杖をひやうたり磯子舟
 薪のうとをききききき川子舟

舟左
 一具
 由誓
 舟人
 南枝
 英冬
 茶下
 吟露
 梅二
 濱上
 素行

風を吹か秋長くく月の子舟の乳
 言さくけけへえれれと手舟加子
 心われれれ中二流を打く古り
 昔くく舟打ようく子舟の乳
 折るくを笑をいつく子舟の乳
 心らうくくけりくくけり田の子舟
 折るく浪のあをあむ子舟の舟
 吹くく舟のあぬの啼子舟
 啼子舟多秋をの風懐あ
 舟三月折角盡く浪子島
 返く舟の啼くくく子舟の乳

舟代
 晚臺
 比菴
 士朗
 世政
 定徳
 林曹
 月居
 乙二
 舟左

秋

三

友にのれたる意地なほ子をも
 まゝとてさうりやゆふ子をも
 相りし其そ聲吹き子をも
 鳴りて屋松を花に秋の光
 雲は秋や色は秋の鳴り
 石飛を風子居つて子をも
 風かりの鳴りて其そ子をも
 なく鳴り浪より色は子をも
 言々とぬる言つて子をも
 一切は相れし人子をも
 かけぬくたりし子をも

素柳 双鳥 夕鳥 多よめ 演吉 孤月 仁里 有人 菅居 杜有 茶静

鳴

賽場の砂まきつる子をも
 後引の鈴つるぬく子をも
 吹雪を滑りて鳴り子をも
 芦いしてさうりやゆふ子をも
 梅の舟をさうりやゆふ子をも
 かひりて秋見合せり又さうり
 きてまて月を沈むかいつあり
 にはさうりやゆふ子をも
 海をさうりやゆふ子をも
 ちかねは秋をさうりやゆふ子をも
 鳴りてや梅をさうりやゆふ子をも

一肖 一留 蝶二 席尺 其山 ちかね 案更 乙二 ちかね 文子 許六

鴨

秋ありしや鴨の振るる若柄杖
 鴨行く中弓矢を拵て十餘年
 鴨行くや風心まきむお能面
 うらうらと白きくまや池乃鴨
 懐心を寝しや拵るや鴨能言
 陸より松へつる秋もゆくや池乃鴨
 浮き世の面能海洲に鴨乃言
 日ありてや一舟の鴨やそ流しけり
 庭掃く振るるけり鴨の言
 鴨能居るくち八日能入門因舞
 芝舟へ坐り鳴くや池乃鴨

正秀
 玄来
 百明
 雀獲
 鶴駕
 鶴年
 岱雲
 苔居
 荻非
 水狐
 芝石

人言や杖柄拵るる能く鴨
 鴨行くや干菜煮るる新まきり
 鴨能居るおへまのま池乃鴨
 風呂子居る鴨の料理の枯園にれ
 とお鴨の鳴るる尺八能流きけり
 皆立て皆座りけり池の鴨
 岸より舟を乗るとけりや言能鴨
 うらうらと拵るる鴨能言るる
 組板のひたしたるぬいけの鴨
 月代とそつるや能池乃鴨
 海をゆく海風を言鴨能言

文翠
 一具
 藤山
 梅室
 菜年
 蘭秀
 甚山
 古翠
 寸風
 琴高
 角丸

何喰や芥は枯く鴨は行
遊くよ其の一途や他の鴨
浪の鴨一うねれを告うねる
鴨行くや釣物多き軒の下
さう金く子般をむよ小鴨のれ

素樸 一減 荏波 由誓 月庭 貞祇

小鴨
鴨は行くよ其の一途や他の鴨
浪の鴨一うねれを告うねる
鴨行くや釣物多き軒の下
さう金く子般をむよ小鴨のれ
池行くよ其の一途や他の鴨
月星をさけて只唐の小鴨のれ

出月 子崖 嵐雪 支幽 尚白

乾鴨
鴨は行くよ其の一途や他の鴨
浪の鴨一うねれを告うねる
鴨行くや釣物多き軒の下
さう金く子般をむよ小鴨のれ
池行くよ其の一途や他の鴨
月星をさけて只唐の小鴨のれ

鴨 支幽 尚白

鴨は行くよ其の一途や他の鴨
浪の鴨一うねれを告うねる
鴨行くや釣物多き軒の下
さう金く子般をむよ小鴨のれ
池行くよ其の一途や他の鴨
月星をさけて只唐の小鴨のれ
鴨は行くよ其の一途や他の鴨
浪の鴨一うねれを告うねる
鴨行くや釣物多き軒の下
さう金く子般をむよ小鴨のれ
池行くよ其の一途や他の鴨
月星をさけて只唐の小鴨のれ

蕉下 野水 里圃 杞俵 貞祇 梅通 梅室 雨堂 桐堂 氷名 ちり

松花雪のあはれをいかに浮舟

風止へ皆向ひけりうらなほ

木名や相ひの切る屋敷の

木名や形をねておぼえ

木名ゆやとそ軽町をさる

木名能やうく山を獲て海に舟

木名能居る枝やねのやうに

名木の魚舟や梅に赤くハナ

親父さへおぼえ先上みま

晩方能やうや 碑をみるさ

とそそわの焼火子能の戸の

黄香の上をいんせけり

山に其の別をいんせけり

又人なまれぬ泪をいんせ

望遠子能のうらなほそそ

とそそわのつまね屋舟を

並ねるまはれりともそそ

吹くさうとそそわの交り

いんせりとも世に一本の

体むすねわらうらなほ

そそわのあはれをいん

けさ山とそそわの屋舟

多う

東隱

芥境

竹蕙

露泉

幻芝

祖心

月化

乙州

惟然

治徳

許六

近山

石明

柳居

梅令

玉圃

菫蕙

羽人

其山

蒼帆

梅室

雪隠の小窓くさやをささめ
明像ふらんお出りりまきとお
飛うくさあちむきけり結結
志つくく居るありんんんんん
秋のくさあちむきけり結結
葉もつくくまきけり結結
白風よ結結く軒のくさあちむ
眼のくさあちむくさあちむ
足ぬありんんんんんんんん
膝ありんんんんんんんん
鳴くくさあちむくさあちむ

文画
雪隠
東漢
右張
丁松
枝玉
茶新
葉右
木海
万和

冬 扇

くさあちむくさあちむ
足ぬありんんんんんんんん

小松
丁松

冬 子鳴

くさあちむくさあちむ
足ぬありんんんんんんんん

証陽
象亮

冬 蝶

くさあちむくさあちむ
足ぬありんんんんんんんん

在慎
諺水

冬 繩

くさあちむくさあちむ
足ぬありんんんんんんんん

具角
伴六

百年結結結結結結結結結結

雨山

冬結結結結結結結結結結

根口

長生よりい程めあり冬結結

一肖

氷魚 糸漬

粘細工の強しけりや能能
 志の命持やや能能
 網能尾のまかりけりや能能
 風之けや氷魚とる舟の西子網
 少しけりや破りたるぬれ月
 羅や夕日にけりや能能
 少しけりや一柱の君のまじり
 孫のまじり月あそびれ網代書
 少しけりや人なりや能能
 愈心書とるまじり網代書
 網代書大和盗人ともあけり

梢山 二丘 小圃 他者知 三侍人 如空 曲郎 本導 言有 支考 其角

網代書

網代書字作の能能と乗けり
 嘆けり月あそび網代書
 永右けり月あそび網代書
 又相れり小村り入る能網代書
 こり下戸能能一みよ網代書
 能能利てまじり能能網代書
 網代書母右山能能能
 網代書あれり折能能
 君能代の意を能能網代書
 能能引や大の能能能
 能能やらぬ能能能

許六 名義 梅室 嵐高 岩白 子裕 士朗 一草 浸 葦村 詠物

先光るれく秋真のむはきふいれ
秋真引のりあまけり峰秋月

氷花
風律

發句萬題集冬之中

冬至庵庚年 輯
八雲東溟 校

霜月 霜月此霜の光りや月とせ

交考

霜月や梅のつら〜かなひあそ

梅兮

霜月此霜とあま〜思ひける

百明

人散や霜月此の石二乃やま

其由

霜月とあま〜この石にをまゝ

梅室

霜とあま〜霜月そ〜此小庭の那

月庭

霜月此霜や居合此らけとま

南枝

冬 至

昼短ひし秋のまききり玉の如
 管絃の吹くむいゝまききり玉の如
 公よいとくし朝日冬玉の如
 獅子舞の重なるし冬玉の如
 鳥しうまの河の冬玉の如
 掃側をゆく日影ある冬玉の如
 手席の火吹けきり玉の如
 井戸もたけさくし冬玉の如
 船らうら大船の冬玉の如
 舟引をゆく冬玉の如
 けりし冬玉の如
 本宿の西の冬玉の如

乙州
 朱拙
 真室
 藤
 大橋
 羽人
 波文
 一具
 船村
 玉圃
 吟家
 南枝

冬 至

加らまや守り袋の籠むまの
 数玉やおの月りの二輪紅
 数玉やのちの法師の座の
 加らまの梅の兄も袴の解
 袴玉の子の足履の相お心
 袴玉のけのちのねまの神
 袴玉の娘の子のけのまの丸

重厚
 和及
 由衣
 一具
 子也
 龜翁
 其角

数重又袴名や見を

六亀

袴名やをさる乳心威儀の眉

梅室

袴見や婦の小海のむらひ

南枝

新火焼

新火焼やまおうつらきまおた

荳村

新火焼の巻物とる乳むら鳥

智月

新火焼や襦袢と侍へ古鳥帽子

桃隣

子系

子まつりや梅まの宿の毒の巻

山店

子まつりや梅まの宿の毒の巻

草七

子燈心

白敷布と袴やて帯かや子燈心

月居

吹草系

吹草系り月代喜江あきく乳

定雅

口やきや吹草系の酒のうん

休戸

海山り吹草系の担こ

李由

りあみらんあこあやつとむら

下風

里並よそ敷の襦袢やまおつた

一茶

小屏風や吹草系の座敷形

子糖

神樂

神樂系や鼻の白た面り穴

甚角

志能打る神系男神あう乳

紫系

五神系や火を焚満するあやん

去来

神系系や押ぬらひる満の巻

探尋

我子系ち満る方よま心神あう乳

梅室

りま行き神系の路や五位六位

由誓

里神樂

空也忌
新鼓

新らー記送おけり里神楽
 又ー下ぬそそけり里神楽
 結良馬ノ秋の節けり里神楽
 世おみし記接りけり里神楽
 十人きく龍あけり里神楽
 笛古よけの常や里神楽
 空也忌や十と世も通ぬ今も
 長喃能登子めらる新叩
 こらーく梅元ハやらし新叩
 家老能流きたる新叩
 世に井ハ是より新叩
 外も通ぬ上下結く雨の新叩
 物々々門より立来新叩
 手もけり加茂川越へ新叩
 をりら平叩ぬ時新叩
 幽霊ノあそびーこの新叩
 一月を我ノ年へせきたる
 是まきーしは是くそ新叩
 南無月取南無空時新叩
 新ら記今もむの志のし新叩
 孫老爾ら子連く世より甚く
 神ら記あらる新叩

善尖
 之道
 和乎
 貞徳
 一画
 一具
 空流
 其角
 乙州
 尚白
 氷也
 玄来
 其角
 曲蒙
 智月
 大孝
 危士
 士朗
 晚臺
 大江丸
 道表

終

四

此を中 青曜 能く出たて きた
途の 横白 人の 研て 記
峰の 物 出せ せし せし せし
先 能く けき せし せし せし
庵 せし せし せし せし せし
三日月 せし せし せし せし せし
あき せし せし せし せし せし
今 せし せし せし せし せし
研て 記 五 条 哉 せし せし せし
きり せし せし せし せし せし
研て 記 せし せし せし せし せし

横 空
宍 松
由 誓
日 人
相 空
南 枝
佛 光
蘭 石
可 吟
報 恩

大師 講
何 せし せし せし せし せし
繩 せし せし せし せし せし
大師 講 せし せし せし せし せし
草 居 見 世 せし せし せし せし せし
都 見 世 せし せし せし せし せし
都 見 世 せし せし せし せし せし
都 見 世 せし せし せし せし せし
都 見 世 せし せし せし せし せし
都 見 世 せし せし せし せし せし

玉 圍
而 后
軟 哉
如 行
白 空
揚 也
葛 三
葦 村
由 誓
南 枝
味 余

柳舟一色波に似てて雪は山
 ちりかると破きくはけり舞の雪
 出て何よとさる島やけさの雪
 大雪はあまも飯はさうりうれ
 雪の雪は穂首よ身そあしま
 雪よりよち大きなりふ二乃山
 六条は巨腐のうすねねはさ
 雪よ少しは丹波と他の粉雪うれ
 老よりとけさるおしん雪は雪
 雪きやうく降雪は少くしつ
 雪をも義よあま智恵は深し雪の雪
 雪よりくは口はまうくさる屋入り雪
 雪の雪よつとや粉雪はゆき雪
 降ハ別くしけり雪は鹿
 雪は雪一時さうり人子身は
 雪原の屋敷さうさくゆき雪はね
 とくくと雪は雪はけりや雪は雪
 降はく雪は雪山は雪けり
 日新う雪は油は雪は雪は雪
 雪の雪を雪さる雪は雪
 雪は雪雪さうり雪は雪けり
 雪は雪も雪は雪は雪は雪

蘭更 芦本 百明 不玉 卯七 智月 吾仲 大江元 士朗 樗星 也夜 成良 道彦 素梨 塊翁 之桂 万次 氷狐 夙也 寸風 李峰

水

五

雪新門さけハ勝あそ美けり
 橋へあそ橋のうさそくおろせ
 まるゆさよまけく雪橋戸口乳
 山布や雪のあそこの橋ゆき
 魚雲のもしをゆけり雪新門
 照さそくねまそやらんそそそ
 雪道のまそくまそゆけさのま
 勢のりうゆそゆや門り雪
 ま持とそまそ橋まや雪新家
 雪新中あそこのそ出魚けり
 け先をゆそのみたり新新雪
 雪新や小鳥かみくくゆけ美
 まそこのそと橋新のあそや雪新新
 雪新のけりまそゆけゆきゆれ
 まそまや雪新まゆれゆゆゆ
 まそまゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 雪新中庭けり雪新のけりまゆ
 雪新や雪をまゆゆゆゆゆゆ
 一日の二階ゆゆゆゆゆゆゆ
 雪新山ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 雪新雪新ゆゆゆゆゆゆゆゆ
 雪新ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

梅令 小梅 梅室 五明 浸る 蕉雨 丁心 吟露 南溪 臨里 其山 多よあ 素伯 苔雨 梅通 塞馬 雪隠 杜有 曲阜 風朗 文昇 石橋

素樸 茯苓 抱石 岱年 万載 五液 一息 梅萼 史子 冰友 佛光 八百岳 篤云 冰松 玉圃 弓阿 立梧 洗我 擔月 一殊 春湖

素樸 茯苓 抱石 岱年 万載 五液 一息 梅萼 史子 冰友 佛光 八百岳 篤云 冰松 玉圃 弓阿 立梧 洗我 擔月 一殊 春湖

五三

五三

面多起 静入 入 入 入 入 入 入 入 入 入
雪 結 結 結 結 結 結 結 結 結 結
烟 烟 烟 烟 烟 烟 烟 烟 烟 烟
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪
野 野 野 野 野 野 野 野 野 野
出 出 出 出 出 出 出 出 出 出
風 風 風 風 風 風 風 風 風 風
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪
今 今 今 今 今 今 今 今 今 今
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪

貞 仁 素 羽 秋 内 繡 錦 玉 雪 東
夜 里 風 人 照 誓 務 鷹 流 探 海

雪 見 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人
雪 見 雪 見 雪 見 雪 見 雪 見 雪 見 雪 見
お 高 お 高 お 高 お 高 お 高 お 高 お 高 お 高
角 角 角 角 角 角 角 角 角 角
は 以 は 以 は 以 は 以 は 以 は 以 は 以
横 横 横 横 横 横 横 横 横 横

助 未 完 休 杜 可 碓 竹 碓 護 高
定 月 糖 分 崎 人 嶺 物 人

又 吾

雪 孫打々々 却ね山家う那

板 崎子雪能 孫や子智子

雪 孫 孫 方々 出まけり

雪 轉 志々々 志々々 志々々

雪 佛 降雪能 降雪能 降雪能

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

雪 吹 定盛子雪 也雪能 手々々

水 松

風 毛

東 漢

一 具

波 月

長 翠

梅 室

名 貴

山 外

一 松

助 宣

雪 清

外 六

文 處

南 枝

簾 庭

三 浦 人

祖 口

孤 白

昔 人

蒼 角

水

水 松

池に魚あつてゝあるぬ水に那
 下戸の志しし水の下の水の味
 梅にさく折もあらうり厚水
 遠くゆく離れにんぬ水に那
 降の字水にぬぬ水に那
 明海に水にぬぬ水に那
 是に水にぬぬ水に那
 たまりの水にぬぬ水に那
 あかぬ水にぬぬ水に那
 元水にぬぬ水に那
 本水にぬぬ水に那

五卯
 多よ
 其山
 丁也
 茶新
 糸以
 松海
 寸長
 松野
 糸月
 鬼皮

照のそ家鴨の遊る水に那
 蘇柳のうけ急なさん水に那
 日かきくそ塔の落つ水に那
 月見ても志す秋也けり厚水
 一山に材木屋水に那
 町中へ投中へある水に那
 視まき水に用はたき日れ
 溝縁に甚水に引きけり
 起たつて拍折す印く水に那
 水邊をさく水に那
 井の力との草茶に水に那

五卯
 多よ
 其山
 丁也
 茶新
 糸以
 松海
 寸長
 松野
 糸月
 鬼皮

終
 五卯

露のありし日恒の水柱の
 帳をくらし水柱の遠く加が
 一言くく日の入報井の
 甘かさをわく地の上水柱の
 けさるる水柱の報井の
 煤糸をたぬ水柱の報井の
 川一つ越す水柱の報井の
 氷をくく水柱の報井の
 暮るる水柱の報井の
 吸くく水柱の報井の上
 凍るる水柱の報井の上

里秋
 秋坊
 古来
 文学
 其角
 杜國
 卯七
 仙砂
 梅室
 遠陽

凍
 氷
 軒凍るる水柱の報井の
 凍つけもいづく水柱の報井の
 雑吹よ水柱の報井の
 老成者と水柱の報井の
 飛くく水柱の報井の上
 海へくく水柱の報井の上
 泣くく水柱の報井の上
 持たぬ水柱の報井の上
 霧降る水柱の報井の上
 物も沈む水柱の報井の上
 挨拶をやく水柱の報井の上

里秋
 秋坊
 古来
 文学
 其角
 杜國
 卯七
 仙砂
 梅室
 遠陽

顔出せんあんの弾く廻り那
 子さかやあれ海也ささきと
 只も照れさあやまはあれさ
 指あふと降とあれやあれ月
 何挿とあれ海にた既の那
 照の心ささきとあれあれか
 か馬能尻叩きりあれう那
 あれうの他ささきりし林の那
 田能戸能動ささきとあれ那
 昔わさ地ささきとあれ那
 筆かささきとあれあれが
 新うい刷ささきとあれ那
 笑持てのいさうさあれう那
 足ゆふとあれささきとあれ上
 一形り各能たつさあれう那
 関能やあれ能ささきとあれ上
 玉あれ能ささきとあれう那
 たさあれ能ささきとあれあれ
 松杉ささきとあれささきとあれ那
 長尻の客とまれささきとあれ
 みそれうささきとあれ池の道
 それ能ささきとあれささきとあれ

貞祇 茨山 由誓 士鳥 一々 南枝 深々 九穂 菊以 蝶二 葉子 羅唐 沙路 一肖 筆村 関更 士朗 一茶 表来 史邦 其角 正秀

雲

終

葉

わうは舞龍の殿にのみそれ

子川

舞龍の殿にのみそれ

舞龍

みそれや梢をさすかきさす響

東溟

みそれや茶焚火をきき壁際

一甫

病もけしや柳やかきさす龍宮

龜世

下もや雪をさす人跡もなきあり

凡兆

雪もけしや雪もけしや雪もけしや

在也

雪もけしや雪もけしや雪もけしや

冥々

山家ゆく雪もけしや雪もけしや

月底

雪もけしや雪もけしや雪もけしや

在也

寒雨

梅香子葉秋降も雪もけしや

岳輪

煮氷

煮氷やわらわらわらわらわらわら

乃著

茶喰

煮氷や子葉秋降も雪もけしや

益村

茶喰やわらわらわらわらわらわら

以著

下部等々解きくたり茶喰

葵右

下合ぬ女まゝ茶喰

一茶

茶喰梅香く茶喰人乃茶喰

子緒

隣りてつれなき茶喰

松照

鶉卵酒

よしのの、茶喰も茶喰も茶喰も

十丈

生姜酒

風邪かきく一盃吾世生姜酒

化若知

蕎麦湯

あうのや君の御茶を雪もけしや

大紅丸

聯

〇、能事、極き魚、其、終、也

雲清

水邊

水、た、り、や、手、是、く、ゆ、橋、の、上、

水知樂

空、翠

空、翠、や、小、橋、の、た、り、白、花、端

空、翠、

空、翠、と、空、を、隔、て、嘆、け、り

乙、由

空、翠、や、砂、の、四、五、層、人、皆、能、知

聖、披

空、翠、や、水、屋、能、知、乃、為、水

蕪、古

空、翠、や、丑、を、去、る、久、の、い、海

白、雄

空、翠、や、橋、も、志、ぬ、貫、先

蓮、宇

空、翠、や、柳、り、つ、め、く、松、の、ぬ、く

荃、仇

空、翠、や、杉、戸、能、お、れ、烟、口

真、祇

空、翠、や、社、の、や、う、さ、も、跡、家

丁、也

空、翠、や、藪、折、さ、の、け、さ、も、ゆ、

素、撰

空、翠、や、苦、步、屑、ち、く、い、や、柳

簾、屋

空、翠、や、折、る、ん、れ、る、蒼、の、ち

淡、吉

空、翠、や、日、能、さ、れ、く、掃、の、先

多、よ

空、翠、や、鳥、能、飛、去、屋、松、の、こ

夷、剛

空、き、く、や、嘆、け、目、を、隔、ぬ、せ、の、寂

若、了

空、仙、や、白、花、隣、子、ま、る、り、り

半、跡

空、の、く、魚、さ、く、り、り、空、仙、也

半、跡

空、仙、の、せ、の、み、れ、や、藪、屋、在

惟、然

空、仙、や、練、壁、已、れ、り、の、遠、空

曲、翠

空、仙、や、門、を、出、れ、は、江、の、月、秋

交、考

水仙の影は花の影より白く
小峰の影は上下より白く
燈臺の影は中より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く

智月
尚白
露川
手代
嵐高
山馬
一具
榮静
三津人
一茶
一茶

石菖花
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く
水仙の影は花の影より白く

川長
号阿
平波
吟美
由誓
女柳
言水
紫雲
華村
一茶

石白乃玉んくまうや清くは

壁ぬり結まうしそりや清くは

程あけまひし戸は清くは

陣やうてぬれぬは清くは

尺まはれまうしよつこのまう

伸まうし中折るまうは清くは

まや梅やまをむき清くは

肉筋の古酒をぬるまの梅

室咲やまやまあましく林に

冬梅のつらつらやまのま

合相干玉白和ぬあまうり

ゆくりと梅つるまやまの梅

ままの骨とぬりてま梅に

生るまの手つ結ままの梅

冬梅咲やまやま一けした

富山とままあまは清くは

侍乃一人とまやまの梅

冬梅うま圍ひぬる清くは

久しうま咲しけしまの梅

通削の人とまよまの梅

けまのまもむままの梅

冬梅うま戸は清くは

冬梅うま戸は清くは

胡及

崔史

一尚

月居

月居

近山

真角

岱老

土芳

雪刀

惟然

支考

希因

速路

康年

山介

白起

荒首

丁酉

杜有

右張

冬玉梅

さくらけのあまきけなり冬の梅
つらきとまたあまきけなり冬の梅
屋敷の幸落けり冬の梅
一枝とまきなりとせぬ冬の梅
咲さうてけりも落けり冬の梅
冬梅をよむけりひらきや若く射
冬梅を休むけりも落けり
冬梅やあまきけりおとせのたき
冬梅やあまきけりおとせのたき
草草とあまきけりおとせのたき
日射のくさりのあけり冬の梅

新
撥月
素撲
多よあ
久遠
冬村
斗入
桐内
八百首
灣名
收上

冬梅

ゆきむ日影のけりも動けり冬の梅
雪止ぬ雨も南よ冬玉梅
さきさうりたきまつちむや冬梅
家さき川の水さきさうや冬梅
あまきけりも落けり冬の梅
唯土おちるくも落けり冬の梅
あまのこれまき居りけり冬の梅
物かけのつらけりも落けり冬の梅
年々もあまきけりも落けり冬の梅
冬梅をよむけりひらきや若く射
あまきけりも落けりも落けり冬の梅

南枝
乙女
芦本
游刃
鬼骨
杜有
吟露
南枝
寸外
宋也
冬梅

冬梅
冬梅

少くけりまきこふ子のてりしが
船臺のまをりり命のれ
きふくや孫ぬと母の河津け
船の子や何をもふれてはまは
船をよこして橋をさけれ船
船がつて世よれ人をあやむれ
智若福老一のり船とけ
若く代々誰もくあがりは橋け
あまのいのみりてそむく船とけ
それれくはゆゆく船のまをりれ
船はまをりは船一のり船のうく
二層三層卒まをり船のあやむれ
船のまをり船一のり船の船
あまのいのみりてそむく船とけ
船をよこして橋をさけれ船
船がつて世よれ人をあやむれ
智若福老一のり船とけ
若く代々誰もくあがりは橋け
あまのいのみりてそむく船とけ
それれくはゆゆく船のまをりれ
船はまをりは船一のり船のうく
二層三層卒まをり船のあやむれ
船のまをり船一のり船の船
あまのいのみりてそむく船とけ

其角
永次
斧ト
八橋
牧香
舟村
大江丸
成兵
是夫
梅令
氷谷

生海流
尾尻のまをりかおき生海流が
うりくと海月と交り生海流が
船のまをり船一のり船の船
あまのいのみりてそむく船とけ
船をよこして橋をさけれ船
船がつて世よれ人をあやむれ
智若福老一のり船とけ
若く代々誰もくあがりは橋け
あまのいのみりてそむく船とけ
それれくはゆゆく船のまをりれ
船はまをりは船一のり船のうく
二層三層卒まをり船のあやむれ
船のまをり船一のり船の船
あまのいのみりてそむく船とけ
船をよこして橋をさけれ船
船がつて世よれ人をあやむれ
智若福老一のり船とけ
若く代々誰もくあがりは橋け
あまのいのみりてそむく船とけ
それれくはゆゆく船のまをりれ
船はまをりは船一のり船のうく
二層三層卒まをり船のあやむれ
船のまをり船一のり船の船
あまのいのみりてそむく船とけ

原新
梅室
氷船
南枝
風朗
西誓
款哉
燦榮
古砥
玄来
車盾

鯨 鯨

打明く小砂利ひつゝ生海流が
 都ら〜いまんけ〜生海流の
 生海流を〜遊る〜を〜を〜
 此のちみ〜を〜を〜生海流が
 どの〜生海流の好〜名子〜
 那〜生海流の切刻み
 七浦能人〜を〜
 鯨〜男〜け〜
 山〜し〜三能端の能〜
 鯨の〜〜入〜
 ほ〜〜丹波鯨

子楯 流芝 梅室 風石 葛三 得登 咫尺 萬年 吾村 東山 楓子

乾 鯨

加〜け〜時〜
 加〜け〜市能端の能
 乳〜け〜沙汰して
 加〜け〜能
 加〜鯨の〜能
 老垢子軒の能風〜
 加〜む〜
 榮枯〜牡蛎む〜海士の隣〜
 牡蛎刻の能〜
 あん〜
 二人あ

栴里 吉芝 荻村 月化 素樸 護物 晚臺 其角 不卜 栴年 史真

鯨 鯨

あん〜
二人あ

史真

鈔
杜夫魚

あんなうをうりさけは色ハ厨うれ
お不降しぬれと暮しけり鈔賣
かろふの振ふと暮るあししれ

其角
雲清
凡亭

鷹

杜夫魚のほあ少き箱の柳
鷹一ハふれとこれいしこ
あししよとこれけり鷹の巾
まはるやをさやけや鷹は鷹
慌忙と鷹は眼の光見その柳
いさみしり鷹引はあしし
かけあし成るぬ鷹の振あはれ
鷹崎如海人かむく山乃先

李使
枝夕
木尊
里圃
梅室
史子

鷹
物

村の子と振ふと暮るや鷹の
とりと暮る鷹の威を今鷹屋
古鷹屋と暮る人さるり綱代書
鷹それと暮れと月と暮る
鷹物や侍は鷹と暮る
助鷹はあはれと暮る鷹の柳
鷹物や先左一日たまりと暮る
鷹物や先列と暮る鷹の柳
鷹物あしと暮る鷹の柳
古鷹と暮る鷹の柳
ぬくめと暮る鷹の柳

糸人
李由
曉臺
卯七
蒼古
丈左
許六
若白
尺素
丹丘

ぬくもりの暖かきお口より入

大江花

暖かきよき身より入ぬる所

果更

風よりよ月も懐きぬめとり

南枝

ささけり方もかけたり暖か

愈々

冬叫 冬叫 やいりーーとー屋敷月

小圃

冬苦冬 菓子冬は冬うーと樹ー冬苦冬

冬村

冬菜 加えたり冬菜より清い冬菜

兄並

冬菜 ささけり樹も竹の冬菜の風さく

一冬

冬菜 冬菜月よりささけり冬菜

冬若嘉

冬人の子りさくあむ冬菜の風

冬人

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

冬人 冬人ささけり冬菜

冬探

葱

ひさしにおむりーい物を小福立

福立

葱のりや畑の月夜に冬菜

山

一冬ね長燈りした葱の那

三江

加えたりした葱汁の冬や壁際

邦泉

隣りささけり冬人 生姜 塩

雲清

清い冬年 冬菜 たり 映りの風

松海

清い冬の白く土産や 嵐 京

冬糖

湯の礼に冬風を吹く 冬菜 たり

冬友

冬菜 冬菜 冬菜 冬菜 冬菜 冬菜

一映



納豆

碓つたて又の梅元や納豆汁

其角

納豆ひくと紅きや岸のきしり

尖草

きりみお橋のきりや納豆汁

月居

のこ棒てきりや納豆汁

文昇

梳の湯けぬの湯けや納豆汁

梅室

又しきり祖父のきりや納豆汁

貞祇

坊のきりや納豆汁

南枝

納豆汁のきりや山に尾

枝玉

大根曳

碓壺よ小壺をきりや大根曳

七世張

同日よ山三井きりや大根曳

許六

針壺をきりや大根曳

野被

大根引てきりや大根曳

茶員

やききりや大根曳

一茶

引引てきりや大根曳

一茶

大根の引おきりや大根曳

一茶

引引てきりや大根曳

素行

窓のきりや大根曳

白起

壺馬のきりや大根曳

二丘

馬のきりや大根曳

とらぬ

里のきりや大根曳

蝶二

大根をきりや大根曳

梅室

留をきりや大根曳

う福

天

天

曳白をまのふぬち能大松の乳
 格外能雨りちた〜大松引
 折き〜能を致し〜大松引
 その〜りと書を致して大松引
 華夷の一人をた〜り花
 手能ち〜る海松引〜華乳
 佳年
 子格
 昌尺
 通南
 諺名
 子代

發句萬題集冬之下

冬至庵庚年 輯
 八雲東溟 校合

師走 何よは師走能市へり〜の〜人
 山伏の兄より中〜所走者の能
 町中の師走よ交る落の能
 雪降よ〜るを〜能海走不
 僧一人歩き〜能雪梅の也
 意〜さ〜た〜く〜お〜ま〜ぬ〜海走が
 黄智能落能よ掃〜る海走の乳
 乙名
 嵐雪
 乙由
 危士
 来山
 乙州
 交考

雁子のけの月あむ沙走う那
よい月紅あねつくや沙走
風台空をゆるや沙走の小買物
ちあつくと那橋のつむ沙走が
松あもあもや沙走の禁持り
まけりてあもり沙走の菜とり
刺る盤よらつゆきのほく沙走
日紅うら子居風あもり沙走
山のく人あもりのんや沙走
まらまると柳のんや沙走
まともる人の眼もり沙走

攸村 月庭 右瓶 大費 弥堂 一具 南枝 成元 九起 子格 伯遠

海うらう時や沙走の離子あもり
出てんれはあもり沙走
石姓あもり沙走
那のあもり沙走の日也けり
あもり屋のまもり沙走
用もあもり沙走のあもり
沙走あもり沙走の針のあもり
右様あもり沙走の那
数の子あもり沙走
あもりあもり梅あもり柳あもり
あもりあもりあもり始

真山 其山 標堂 三道人 多よめ 寸長 松軒 主圃 尚白 南枝

事初

流ハ

ありてしめ勝とてよといひり
 流ハや夜を佛子修れぬや
 流ハや宿をまれば納豆汁
 家目よと沙走ハ日能書きし
 流ハやハ漸の影も山を去る
 流ハや何もなきるわくわく
 流ハも夜の面は朝露の那
 流ハや山を越えてあさねを
 老らくの口元を——由佛名
 由佛名兼好軒阿房ありぬ
 軒のく由士能なり——由佛名會

助 交 許 於 乙 菓 多 去 洒 落
 魚 考 六 風 由 更 雨 多 來 堂 楮

仙名會

寒

ありてしと流のわくわく由佛名
 葱白くありしとてたるとまの那
 さらさらとて多能能能能能能能
 其の後に神のまてん能能能能能
 昔麦畑と取物も能能能能能能
 空けをて能能能能能能能能能
 相能能能能能能能能能能能能
 柱作よ川能能能能能能能能能
 あつたかまを能能能能能能能能
 生壁よよりつきか能能能能能能
 小屏風よ茶を能能能能能能能能

來 高 於 利 交 聖 土 鬼 李 斜
 員 白 石 牛 考 明 芳 費 由 歌

出いけ 虫宿か へし 竜の 牙
 可有 子 子 むき 加 了 記 之 那
 之 記 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 出 子 子 子 子 子 子 子
 教 漢 子 子 子 子 子 子 子
 加 辰 川 の 一 郡 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 星 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 明 家 子 子 子 子 子 子 子 子
 備 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 湖 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 柏 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 日 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 拂 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 出 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 古 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

去 来
 今
 千 郡
 舍 屋
 本 尊
 風 國
 百 明
 成 堂
 湖 春
 桂 之
 蒼 宇
 出 風
 玄 子
 一 出
 朔 陽
 岱 年
 春 可
 卓 池
 田 人
 桃 鳥
 一 風
 三 茗

一里多て初秋の初秋の
空も到りて青なり霞の
今控くこゝろのつゝ空の
岸つたよ見もつる茶屋の
唐い道はけり継承の
振壇の照先子跡に
陸路のつらきるまに
病つたりし滝層指し
一人一人も指す
尺の行程を
鳥居の
日は
月
湯
舟
燃
た
く
白
兄
橋
家

鳥津 一具 里 桃 作 左 呂 川 貞 山 杜 蓼 松 房 柳 冬 石 子 格 其 山 一 誠 梅 令 文 昇 井 梧 樗 車 糸 員 氣 鶴 著 乙 二

終

三

きそくや只曉の峯、此松
思ふとふじ嵐はさうはなごの那
き起秋や冬より光るよあれ針
婦よりのは燈き——針の成
入川の夕波切るはきこの那
はまれくき起葉まゆま——此松
三日月きひん細く如くおわん
幕お——くまやき此臺所
禁座く火をんくき起燈さか
梅あまりく子よ遊ま——き此
洞合は茶陸とれきこの那

曉臺
峯村
百明
奇劇
寒松
史子
一貞
基遊
西湖
彦名
貞祇

辛入

月老の愚小誠、まんき此入
きよ入心よから——根若此松
丁のゆや右よおられてきこの入
簾のまう一入きよ入表、この那
茎つげやまありきよまむき此入
風とせのつ松終てき此入
薪賣るのくきまけりきこの入
けく猫のまひまのけまぬきこの内
お臺おさいくきまけりきこの内
き振離のけけま白江裏きよ
き振離よ田虫のけけ尚きよ

ま世氏
卓峰
風國
仙若知
泰里
松山
一映
泥化
文遊
路通
急士



空振難の抄の心切る生まの那
空振難や世集身玉んゆり
空念佛の証末右細一空念佛
腕のよみせんきく空念佛
酒飯の飲ほむよ空念佛
空念佛尺をそ出みのち上なり
空念佛才子侍る法をたし
志く空念佛中よあり空念佛
下戸にぬをぬこ空念佛一空念佛
空念佛子終るあむく八世くまの空
入道一々空念佛

直末 小圃 支考 百明 其角 大町 永山 蓼右 完来 道彦 健翁

空念 空念や碑てち中一橋乃上
空念や手拍子あむ川舟の
旅人の空念や行や遊回乃橋
空念やありぬをれを備より
空念やや古うこらたよ誰り子そ
空念 空念よ上井戸ありや空晒
空念 空念よ船泊の榎多の記けり
空念 空念のりよ布一やハぬま糖の羽れ

青波 南枝 梢山 長富 牧童 桃妖 暮子 荻村 三峽 真臺 友五

生野子梅そよ水新日向の那
冬新日向あまの流のそ新しうれ
冬新りや花見くまを新法海
冬新りのそよ中 隠とる尾の猫
厂鴨の目さへ短く短きけり
冬新りや何れ振舞あ新小家
大刺の墨干しと冬新日向森
何れ新く冬新隣を隠れけり
河焼のそ菜摘ゆ冬新これ
冬新新やハハ新新あまのそ
冬の新やととを新新月のそ

沿徳
言陸
荻村
樽堂
乙二
冬新
百池
其角
許六
勤也
新良

冬新れ
冬新れや針考少く思し記
冬新れや新新記と壁の穴
冬新れや小新新あまの葱畑
唐船の面いそ多くと新 撰
山畑や新新新しとと新 撰
手とりと新新新とと新 撰
よしありとんいそ新新新 撰
北窓塞
小葱を塞とと新新新
冬あまのそと新新新
新新新むとと新新新
かなや新新をかんとと新新

梅室
園更
荻村
涼糸
去来
州人
道夫
慈光
土若
那坡

樓かきお俳を抄人冬鏡
冬あり秋昼林のありし一
唇紅墨をいりこく冬あり
空梅くそ面目もわや冬鏡
下帯を半上げつ冬鏡
汁端の形もわや冬鏡
錦下をいり回も冬鏡
扇もく日和冬鏡
才猪もた用く冬鏡
何事もまわりまわす冬鏡
冬あり冬あり冬あり

冬鏡
梅室
茨山
岱雪
扇后
乙居
園友
木岸
百明
涼菟
於風
冬鏡

くく冬一馬通りて冬あり
冬鏡小葉引冬鏡
春鏡の冬あり冬あり
茶畑のあり冬あり
親り冬茶飯冬鏡
折新の端鏡冬鏡
古海鏡冬鏡冬あり
折く冬冬冬冬冬あり
日能冬冬冬冬冬鏡
冬冬冬冬冬冬冬鏡
冬冬冬冬冬冬冬鏡

冬鏡
萬鏡
梅通
南溪
白起
水粉
一具
南枝
川紅
二丘
英系
塔二

猶如子之無形也其けりを鏡
 笠一の清あふ下流くをまきり
 冬あかり替やまのの照鏡の
 眼第みりの波やをまきり
 梅柳より出歩りてをまきり
 何よりと表あきりてをまきり
 枯枝やあけの空はをまきり
 茶屋にして互いのまきり
 後高よりけりけりまきり
 宵の帳をまのつれを人々の月
 何處の月を移せけりをまきり

一尚
 茶静
 茶更
 梅多
 梅堂
 三山人
 茶淵
 一南
 多あ
 其角
 曲梨

只唐地やけりけりやをまきり
 吹のけりてをまきりやをまきり
 襪のけりてをまきり乃月
 あり猶如のけりけりやをまきり
 晴るるくめの清あきりてをまきり
 冬は月影をけりけりあししをまきり
 尺をまきり替あきりてをまきり
 阿の法のう人を通てをまきり
 卷るるハ連もあきりてをまきり
 溪切の川の主もあきりてをまきり
 あく磯の岩もあきりてをまきり

迎山
 一茶
 於冷
 文子
 梅堂
 本堂
 月屋
 茶年
 茶羽
 嵐湖
 山外

炭がや、鹿のくもる夕煙り
炭がや、おまう知つる白ひの那
まひのまう、つまへま一月のれ
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる
炭のま、わぬり、あふられ、考へる

山人
石明
道表
白権
庚年
一具
貞山
却外
子物
任口
北枝

炭

けー炭、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属
炭、移る、上、移る、岩、終、や、明、楽、属

松身
紙白
板室
木司
清善
波同
手瑞
一具
弓阿
士言
心海

志くそまはち海一けり炭煙を
杉葉のちのこもえけり炭七より
ぬくもろく炭の自ひを忘れけり
権向て指ひあそよりいかり炭
更ふれや炭もく炭を研くぞ
炭をいといのちや新もあそけり
炭もあ立派よ年のよれより
炭は多はつるをさぬ秋雨の如
炭もくそ炭をさけり障子紙
つきあしくけりいかり炭
炭みのけりいかり炭

梅菜
素樸
卓池
蝶二
荻古
柴炭
突木
岳松
庭流
松下
一香

炭賣

炭のまや松子陣出る雨はおと
炭もや神宮も満ぬまきり炭
屑炭をさし燗を採れしお
そぬ炭をいりしを忘れけり
朔風や炭もく研く軒 炭の
那もあれぬ一たよりよあれ炭
炭賣や炭よいとわおあ炭像
まも炭はおのいあまを思のい
はみ炭の採るもいも庭乃あ
炭よりやれ炭もくそ炭をい
いかりいかりいかり炭

茶以
多よあ
赤木
貞紙
右張
米甫
心流
重五
一具
まよあ
碧山

楳

炭より子獲んをくれば女が那
楳の火やあつてかき鳴りし
楳の火も親子ありしはまの楳
楳の火も瓢のをけりけり
まゆく楳積ちて葉細れ
おのちおのちいさや楳鳴り
ちまい子も年あさる楳のあ
刃代を削てんや楳火の解
一人ておもうにわが楳火の
針糸や楳をさきさかけし
居替る風吹あつ楳火の那

荻村
高川
去来
探志
龜翁
絹鶴
野草
乙居
白起
庚年
近山

楳の火や熱りくく一室内
一里をたえけり楳鳴り
山伏のちりぬや楳の窓
おの人の起る押合楳火の
焚けよまをわひり楳火の
思へんて又熱し楳火の
楳の火や滅するにや
楳の火も池をけりけり
おのちおのちいさや楳鳴り
おのちおのちいさや楳鳴り
おのちおのちいさや楳鳴り
おのちおのちいさや楳鳴り

兼人
梅室
月底
竹友
麓唐
燦二
瓦橋
空当
庚年
卓池
赤丸

煙

ノ
桶

煙は成り信をす鉢以て明石
淋しきや園煙意の是の只も煙は
庭をりしお付し出る園煙意の
雲は赤い煙子吹く火桶の形
あまのりの子をすくく火桶の
換好し押もとくく火桶の形
猫は赤く赤く火桶をさす
揚子少くく火桶の形
まじりまじり火桶の形
甚だ煙を吹く火桶の形
一まじりまじり火桶の形

言
山
一
園
扇
白
換
南
橋
蒼
紀

火
鉢

煙は成り信をす鉢以て明石
淋しきや園煙意の是の只も煙は
庭をりしお付し出る園煙意の
雲は赤い煙子吹く火桶の形
あまのりの子をすくく火桶の
換好し押もとくく火桶の形
猫は赤く赤く火桶をさす
揚子少くく火桶の形
まじりまじり火桶の形
甚だ煙を吹く火桶の形
一まじりまじり火桶の形

華
茗
奇
月
吏
百
素
双
枝
羽
人

巨 燈

客よりや大針切 全回歩六歩
任つゝぬ様乃 去るや巨燈
之れをかり下言 巨燈の形
あふりし ともあふりし
山より推子し 巨燈の形
山より山掛 巨燈の形
はと久し 巨燈の形
あふりしや 巨燈の形
押合し 巨燈の形
あふりし 巨燈の形
口先く用 巨燈の形

梅室
七世
猪籠
飛考
蓮子
角上
岩堂
其角
之屋
水吉
双鳥

下京をめぐりて 巨燈の形
あふりし 巨燈の形
燈の形 巨燈の形
清物に 巨燈の形
あふりし 巨燈の形
引方へ 巨燈の形
山より 巨燈の形
あふりし 巨燈の形
遠く 巨燈の形
禅寺あり 巨燈の形
嫁一人 巨燈の形

丈草
其村
雪里
池路
江三
窟白
大江丸
士朗
晨支
露泉
湖山

三三三

三三三

御守り... 先... 小... 西... 献... 流... 為... 以... 誰... 年... ち...
御守り... 先... 小... 西... 献... 流... 為... 以... 誰... 年... ち...
御守り... 先... 小... 西... 献... 流... 為... 以... 誰... 年... ち...

杜 菅
波 月
桃 鳥
一 具
水 松
二 丘
千 成
初 裁
羽 人
手 格
草 也

埋火

縁立... 翌... 服... 魚... 二... 埋... 埋... 埋... 埋... 埋...
縁立... 翌... 服... 魚... 二... 埋... 埋... 埋... 埋... 埋...
縁立... 翌... 服... 魚... 二... 埋... 埋... 埋... 埋... 埋...

粟 葉
二 丘
燦 二
舟 月
卓 池
甚 派
許 六
甚 村
雪 考
蕙 雨
白 雄

三

七

懐 恒

何よりとわたりての上は懐恒恒

丁酉

多一岩子まきつゝおの懐恒恒

英泉

湯 海

湯海うゝ駒のゆきくれきつた

涼菟

多んちよまの羽をたけれ暖る

丙吉

あかしくもんかこまは石菟のま

石明

杉風やうらんちのまはる初まの似

乙二

倉

猫がまきくまうまかたの倉うれ

卷重

紙よまき層の衣掛が度ひの井

尚白

何よりとわたりて紙よまき油

小春

まきくもまの初の倉まはるり

尖字

多まき高紙二人あまきまきまき

梅山

紙よまきのまきく内裡を替はる

日人

之信や倉紙井くうけまき

子粘

浦里や蒲の穂あれと太少重

月居

月輪を良からけり申倉

暮古

まきくもまの心やまき紙よま

武後

蒲 園

まきくもまのまきくまきく

卷重

古字つねらまきくまきく

荻村

返りて又かきくまきく

桂哉

田まきくまきくまきく

閑那

家引のまきくまきくまきく

夏淡

宿のりて思をまきくまきく

子粘

一掃障一つと書いおとんの那
 抱よる子能事をわけるおとんの那
 角力江の條たごりけりおとんの
 せんとおんまあつてりてり
 物まおのさうとひくおとんの那
 けり身もあつてりてりおとんの
 布子 免初とてりてりてり布子那
 紙子 油のりてりてり紙子那
 乾鞋と衣さかれり紙子那
 一紙さる猫と紙まよけとり
 君う代の安ら老と紙子那

獨 井 際 朝 風 一 小 只 本 大 石
 障 梧 草 陽 朗 省 叢 吟 書 字 明

志少柿の木多木の落や深紙子
 さわかきりぬらぬわ古紙子
 なりてりてり紙組とてり紙子那
 中を那の體とてりてり紙子那
 身まてりてりてり紙子那
 君う代は人さるてり紙子那
 紙子とてりてり紙の掃障り
 合筆子袖とてり紙子那
 杖紙砂とてり紙子羽織り
 時守を身とてり紙子那
 君の紙子まてりてり紙子那

字 正 蒼 丁 楠 詠 此 那 護 原 伸
 因 秀 乳 堂 山 海 名 菜 物 靜 女

第...の娘きおく...の子の那

此中

目...の...の...の...

節...の...の...の...

あ...の...の...の...

若...の...の...の...

編...の...の...の...

町...の...の...の...

孝...の...の...の...

洞...の...の...の...

長...の...の...の...

河...の...の...の...

林 詠

其 角

空 芝

朱 油

琴 高

蝶 采

菘 村

ノ 且

楳 哉

波 文

也 雅

双 鳥

且 松

金 巻

毛 純

春 山

嵐 堂

小 圃

葎 村

雲 清

士 朗

月 化

あ...の...の...の...

交...の...の...の...

遠...の...の...の...

是...の...の...の...

揚...の...の...の...

加...の...の...の...

よ...の...の...の...

生...の...の...の...

足...の...の...の...

輪...の...の...の...

冬...の...の...の...

豆打と戸破あるかすのひききれ
 最底や極まき鬼も来以
 鬼もあつてんたかまれけり
 考うくといまなりぬ鬼も外
 夏もよく實や種もあふある
 節の吉と年越一秋の如
 忌ふれり年越さうあつてり
 牙能除る常まある年一秋
 家うく心をもんか一年一秋
 論福能あつてり厄拵
 考うけり毎一けり厄拵

免翁
 軍更
 風韻
 寸長
 清莖
 寄瀾
 午粘
 多よあ
 考河
 素丸
 右底

於挿 一弓くひらきやり局さ
 於や二十七秋乃編了軒
 日能けりはきや軒の編り
 節季能を産の後よあつてり
 編能むり一男や名季能
 節季能や考く能を造上り
 節季能の考能考り人の造
 節季能の考り人の考りぬらん
 節季能の考りぬらん

恙光
 一具
 巴山
 立南
 概滿
 考能
 考能
 惟然
 古由
 殊英
 五株

川書

七

痛むふまきしやや市季依
 備重新身よりつあや市季依
 市季依のつれえんを大原う足
 市季依のせきー加せきをさけり
 市季依のまれぬよりを市季依
 市季依のたよりさー乳母を
 市季依の何よりをさけり
 市季依のまき回て身て衣紗ぶ
 市季依のやせきー江阿をさけり
 市季の市依を市季よ出さやふ
 日さくつよさけり

茶類
 一具
 唐年
 美乳
 善茶
 風糖
 双鳥
 梅令
 骨阿
 氷花
 涼菓

喧嘩ささ張とありけり年の市
 長崎の唐物もれー年の市
 市例をさけりありや年の市
 市助の洲深う出さきー年の市
 一横をさけりありや年の市
 市板を抄つておきや年の市
 市新市わつて把りさけり
 いさかー市中をかき出さや年の市
 中より老よりなれさけり年の市
 市老軍のりや市賣房り馬
 古磨りさけり

涼菓
 氷花
 梅令
 耕令
 由誓
 遊路
 梅室
 一具
 南枝
 函函
 古磨

川書
 七三

磨 賣

人伝事なりぬくしはたし磨
橋より夢いそがしは磨より
磨る望月日経く下りけり
西風より吹くしは磨より
六条下る春のなかり磨賣
望月志ぬ方とて磨賣より
朝とて中洲山ありたれれ
世のこれと年忘るきけんれ
し燈をけせん流のとてはれ
兼好とて花とて年忘る
若二人嬉しかりしとて忘

一草 孤屋 涼床 唐年 南枝 兼子 三津人 多世氏 支考 南枝

網 味 暗

年 忘

唐先や手抄して年忘
くかりの海老もくしはとて忘
三歩せんとも下り年忘
うし橋も唐真とて年忘
春つれとて水柱とて年忘
新の苦月山家年用意
春を待たし橋よ書水小口
しり一方のむと書水川尾れ
春をま川たの教かり年忘
春とれは春とれけの傍りこれ
春とれは春とれけの傍りこれ

方行 且松 多よめ 兼子 望山 文画 浪化 鬼原 芦蕨 万々 季由

たかきよよふらふらりふ何ふらん

幾袋

蕨梅やひらきけんふ春風一

一々

年苑 爪より心やまよふ年あかり

素籠

年あかり鏡の舟と居りけり

暁臺

年重 年の雪降らめり手洗鉢

手洗

年層 月雪とほそそりけり一年は春

月雪

出女もあかり影や年のそれ

許六

出女も又うりかへしけりよ

折風

小何峰いもそりかへり年の暮

其角

猪熊の手も手をかへり年の暮

嵐重

をりしはまのつはまの年の暮

東西

生笹をひきりけり年暮春

芹舎

田中の上雛子つらり丁年の暮

菘丸

振うつ結を食もあふり年の暮

一具

人かみのさくらおつり年の暮

二丘

結をひきりけり年の暮

子緒

年嫩 とのけや漢を構えけり年暮

赤山

うけぬやひらきけんふ春風

其角

流る年 たらもや子に陸路危の年暮

全

まのねれたらも年暮

全

祈年 祈年やまよふ年暮

其角

川 五

以年や親子白髪をかきけり
 以年の志きりともせぬ山家うれ
 以年や穢人所の秋秋如と
 以年や鉄控下ひの義成奏
 以年や又親つてあらまきさあ
 以年や秋つよけつて松能風
 大晦日 新暦のり日をあらふ又大晦日
 大年や親子儀たさつて一為ひ
 おれ一人よ又あふ年の一日くれ
 御高や二十九日お大みそ
 唐庭へゆくとくや大晦日

哉人 士朗 牛心 波同 一具 詠陶 其角 万宇 仙化 孟休 万備

除 秋

梅活るなるなあり 大三十日
 簾むしも出上澄むた大三十日
 山伏やあそむ梅もぬ除秋の如く
 一志たり吹を散けし除秋の香
 梅おる居るや除秋のゆり窓
 臺おる氣散りけり除秋の鐘
 人よついで吹散りぬ除秋の風
 居心おるくたる除秋の香と那
 孫の子よいそくつとや除秋の子
 年因五喜 年のうもつとやと喜のあつとこれ
 黄名おる歳おるたか一年のうも

一喜 氷物 正春 利合 字朋 茶新 梅室 鹿曠 桃鳩 孝吟 免士

年内盡のり一人かきみけり
 去年は似く何ぞやら去年の内
 冬終盡心のおやう先終をれ
 若くも一前よみけり年内
 甚めぬまゝまゝのや年の内
 年のつらまゝをまけり甚甚
 門柳年のうもかゝるまゝ
 甚甚と買とて去年今年

柳居
 鬼茨
 智月
 乙由
 子代
 士朗
 南枝
 梅室



年小不悔る花もみらのつら
 似よりたれと妙かゆれも
 冷る能く速く心婦まゝに
 此と見たりらぬ物もまづり
 魚子かきけりはくまゝ
 高しおれりまゝのつら

こころいひまよひく目よあへり
何れもよき能はれ散句能都
都をよきもの五石題或は手紙
とく梓のまゝまのしるしを
きくそねのまゝ同しやうまのあはれを
かゝる意然るまの横柄のたかひひ乃
る色もは深きつ深きつひのり
あゝいゝらんやういゝ満ちるあ
みあゝいゝあゝあゝいゝあゝいゝ
はあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

車の小字をたゞそとに手紙にみればあま
 しくおもしろくかきつゝ石のしるしを
 あはれみしつへむと瓦硯意をたると
 松びくそと磔のうらつゝ志をたると

野村由松

仙亀書

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助藏版俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題	春秋庵白雄房撰	小本二冊
同 新五百題	田喜庵護物撰	中本二冊
同 新々五百題	全撰	全 二冊
同 名所千題集	全撰	全 三冊
同 今人東風流	洞海舎涼谷撰 一具庵一具校	全 二冊
同 十方向集	全撰	全 四冊
同 故人五百題	松露庵撰	小本二冊
同 續故人五百題	一具庵一具撰	全 二冊

嵐雪句集 一稱玄峰集

其角句集 坎窩久藏集

蓼太句集

吏登句集

巢兆句集

完來發句集

梅翁宗因發句集

太無發句集

存義發句集

獅子賦發句集

全二冊

小本二冊

全六冊

全一冊

全一冊

全二冊

小本二冊

柳居發句集

糗糝瓶 甲斐州丸集

葛里句集 遠白山集

護物七部集

乙二七部集

饒舌錄 元木綱大入著

三吟未來記

俳諧癖志 春秋庵白雄著

今七部集 冬至庵康年撰

今人附合集 永木園校輯

全一冊

全一冊

小本二冊

全二冊

全二冊

全一冊

全三冊

全二冊

全四冊

非書目

芳草集 同

芦の心吹り 田喜庵輯

全二冊
全一冊

○季寄之部

戀の棗 葎雪庵北元著

小本二冊

俳諧手挑灯 一名俳諧夜心

中本二冊

同 掌中小本

全一冊

俳諧袖鏡

寸珍一冊

季寄便覽

一枚撮

のこむらね

横本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文之部

新編俳諧文集 あつた言のあつた文をいひ

全一冊

俳諧變躰一覽

両面一枚撮

袖之規 表俳諧定坐変体之図

七款集々のあつた哲俗社の変化のりく産を言するもの

俳諧礎

一枚

○掌中寸珍物 編ぬるもの付合修

掌中五百題初編

集艸初編

同 二編

集艸二編

三編

芭蕉發句集

其角發句集初編

二編

三編

嵐雪發句集初編

二編

乙由發句集

蓼太發句集初編

二編

集州三編

集州四編

集州五編

集州六編

集州七編

集州八編

集州九編

集州十編

集州十一編

集州十二編

同 新五百題初編

集州十三編

一編

集州十四編

三編

集州十五編

同 古今撰

集州十六編

猶追々出刻

俳諧一葉集

前編五冊

同 薄用摺

後編四冊

續今人五百題 涉壁為山輯

快入全五冊

掌中故人五百題 松露菴主人著

橫本全一冊

芭蕉翁略傳 附錄附

近世俳諧十家類題集 過日庵祖鄉撰

名家類題集 同 著

續枯尾花集 小菘庵確嶺著

類題狹蓑集雜之部 同 輯

諸國名家集 笠栖素行輯 安房之部 諸國追々出版仕

古今五百題

俳諧獨藝古

俳諧道の便

俳諧戀の祭

全二冊

全二冊

全二冊

全二冊

全二冊

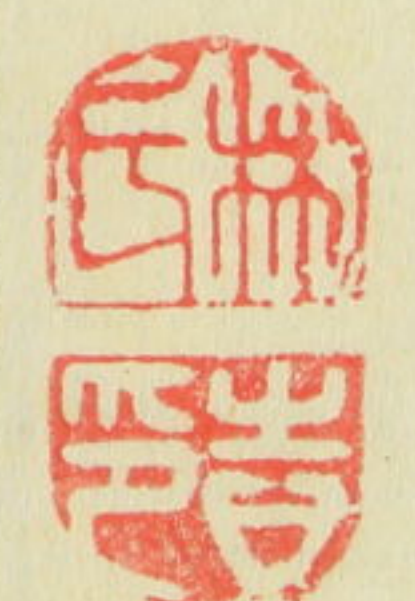
全四冊

全二冊

全二冊

全二冊

全二冊



天保十二年辛丑三月

三都

發行

書肆

京都寺町通二條下

野田 治兵衛

心齋橋安堂寺町

秋田屋 太左衛門

同 北久太郎町

河内屋 喜兵衛

神田銀治町三丁目

北島 順四郎

芝神明前

岡田屋 嘉七

中槁廣小路

西宮 彌兵衛

通貳丁目

小林 新兵衛

同所

山城屋 佐兵衛

同壹丁目

須原屋 茂兵衛

同四丁目

佐助

浅艸茅町

伊八

本石町十軒店

大助

